

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2020.6

No.126

会報

目次

| | |
|--|----|
| ■ 第43回(2020年)日本分子生物学会年会 開催のお知らせ(その3) - 1 | 1 |
| 【年会のコンセプト その3】 | 1 |
| ■ 第22期理事選挙について(公告) | 2 |
| ■ 第22期理事選挙要項 | 2 |
| ■ 会員専用ページ 領収証発行オンライン化のお知らせ | 5 |
| ■ 第10回(2020年)富澤基金による研究助成の審査経過・結果報告 | 6 |
| ■ 第9回(2021年)日本分子生物学会国際会議支援 助成決定会議のご報告 | 8 |
| ■ 国際会議支援システム利用について | 8 |
| ■ キャリアパス対談 第9回: 斉藤典子×花嶋かりな | 9 |
| ■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について | 13 |
| ■ 学術賞、研究助成一覧 | 14 |
| ■ 第21期役員・幹事・各委員会名簿 | 18 |
| ■ 賛助会員芳名 | 19 |



特定非営利活動法人
日本分子生物学会

<https://www.mbsj.jp/>

第43回 日本分子生物学会年会



New Faces,
New Questions,
and
Revitalized Worlds

2020年12月2日(水) ~ 4日(金)

神戸ポートアイランド [神戸国際会議場・神戸国際展示場
神戸ポートピアホテル]

年会長 上村 匡 (京都大学大学院生命科学研究所)

連絡先 第43回日本分子生物学会年会事務局 (株式会社エー・イー企画内)
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 一ツ橋別館4F
Tel: 03-3230-2744 FAX: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2020@aeplan.co.jp

<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2020/>

第 43 回日本分子生物学会年会 開催のお知らせ (その 3)

会 期：2020 年 12 月 2 日(水)～ 4 日(金) (3 日間)
会 場：神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル
年 会 長：上村 匡 (京都大学大学院 生命科学研究科)
年会事務局連絡先：第 43 回日本分子生物学会年会事務局 (株)エー・イー企画内)
〒 101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2020@aeplan.co.jp
年会ホームページ：https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2020/

【年会のコンセプト その3】

今や新型コロナウイルス感染症の流行は、我々一人ひとりの毎日を劇的に変えてしまいました。皆さまの研究活動も、中断あるいは著しい制限を余儀なくされていることと推察申し上げます。同時に、この感染症の世界的な大流行は、「従来の研究集会のフォーマットが全てなのか？」との問いを我々に突きつけてもいます。現在、対応策を議論しており、当初の計画に沿ったプログラムや演題の募集期間などを変更する可能性があります。その場合は、どうかご容赦ください。対応策は会報 127 号 (2020.7 月号) でご案内申し上げます。年会ホームページおよび学会ホームページも定期的にご覧ください。最終的にどのような開催形式になろうとも、最新のデータを持ち寄って熱い議論を交わし、それぞれの研究の一層の飛躍や新しい出会いを生む年会の意義に変わりはありません。“New Faces, New Questions, and Revitalized Worlds” とのコンセプトを損ねることのない MBSJ2020 の実現を目指したいと存じます。皆さまのご参加を、心からお待ち申し上げます。

第 43 回日本分子生物学会年会
年会長 上村 匡
(京都大学大学院生命科学研究科)

The impact of the coronavirus pandemic has been unprecedented and is still unforeseeable. Indeed, this pandemic is forcing the entire scientific community to reconsider what the point of a scientific meeting is in the first place, and to ask whether there might be pandemic-resistant, even superior alternative formats. MBSJ2020 is no exception in this regard. The organizing committee is in the middle of discussing contingency plans. Please allow us to change the detailed information if necessary, including abstract submission and registration, which we have originally planned for this annual meeting to take place on site in Kobe. Whatever the format will be, the everlasting value of every scientific meeting is to discuss the latest developments with other scientists, and the concept of MBSJ2020 is the same, “New Faces, New Questions, and Revitalized Worlds,” and more pertinent than ever. Please find important updates and changes in the July issue of the society newsletter (the extra issue for MBSJ2020) and also in coming pages of our website. We look forward to your participation very much.

Tadashi Uemura
President of MBSJ2020
(Graduate School of Biostudies, Kyoto University)

第 22 期理事選挙について (公告)

2020 年 6 月 10 日

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

日本分子生物学会の定款第 14 条及び同細則第 2 条により、第 22 期理事選挙を行います。選挙業務を行うため、菱田 卓会員 (学習院大・理) に選挙管理委員長、斉藤典子会員 (がん研)、丹羽隆介会員 (筑波大・TARA センター) が選挙管理委員として、阿形清和理事長より委嘱されました。次いで執行部 (庶務幹事) と選挙管理委員会の打ち合わせを経て、具体的には以下のように選挙を行うことになりました。ここに公告いたします。

会員各位におかれましては、次の選挙要項をお読みいただき、ぜひ積極的に理事選挙の投票に参加してくださるようお願い申し上げます。

第 22 期理事選挙要項

今回の理事選挙における選挙権者 (正会員、名誉会員、シニア会員、次世代教育会員、学生会員)、被選挙権者 (正会員と次世代教育会員) は、2020 年 6 月 18 日までに入会手続きを行った会員とします。投票は、学会ホームページの「会員専用ページ」上において、電子投票により行われます。選挙権者は会員専用ページへログインし、被選挙権者の中から 10 名以内を選んで投票してください。

(注) ログインに必要な ID (6 桁の会員番号) とパスワードが不明の会員は、本学会のホームページ (入会・各種申請ページ→パスワードの再発行) をお読みいただき、速やかに再発行の手続きを行ってください。(個人情報の保護を考慮し、ログイン ID・パスワードの内容に関して、お電話ではお答えできませんのでご了承ください。)

○理事選挙の概要

定款第 14 条及び細則第 2 条により、第 22 期 (任期: 2021 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日) の理事選挙を行います。選挙権者の投票により、得票数の多い順に 30 名を当選者とします。ただし、本選挙においては、細則第 2 条 5) の時限特別措置が適用され、理事定数の 20% (6 名) の女性理事枠が設置されていますので、選挙により 6 名の女性当選者が選出されなかった場合には、選挙管理委員会が女性理事が最低 6 名になるまで調整を行います (理事定員 30 名に変更はありません。4 頁の細則・抜粋を参照ください)。

30 位が得票同数の場合は、選挙管理委員会において厳正に抽選を行い、当選者を決定します。また、上述の女性理事の調整の際に、女性理事枠 6 人目の当選者が全体の 30 位より下位で得票同数となった場合も選挙管理委員会における抽選により決定します。

なお、現在 2 期連続 (第 20 期～第 21 期) して理事に就任している以下の方々には、被選挙権がありませんのでご注意ください。

阿形清和、五十嵐和彦、石川冬木、稲田利文、上田泰己、大隅典子、菊池 章、木村 宏、胡桃坂仁志、後藤由季子、小原雄治、中島欽一、中山敬一、鍋島陽一、西田栄介、正井久雄、三浦正幸、山本 卓

○投票前の確認事項

- ・選挙権者は、被選挙権者の中から 10 名までを投票できるものとします。
- ・投票期間: 2020 年 6 月 22 日 (月) 10:00～7 月 10 日 (金) 17:00 (時間厳守)
(開票予定日: 2020 年 7 月 14 日)
- ・第 22 期理事選挙に際して現理事会の責任のもと、同封の通り、116 名の理事候補者参考リストが作成されましたので、ご覧ください。ただし、候補者リストはあくまでも投票のご参考のためであり、リスト以外の被選挙権者への投票を何ら妨げるものではありません。
(会員専用ページ・選挙ページ内にも、会員番号付参考リストを掲載していますので、ご利用ください)
- ・次の場合には、システム上、投票が受け付けられません。
 - 1) 投票後に再投票した場合
 - 2) 投票期間終了後に投票した場合

- 3) 現在2期連続(第20期~第21期)して理事に就任している、被選挙権のない正会員に投票した場合
- 4) 被選挙権のない名誉会員、シニア会員、学生会員に投票した場合

○投票の流れ

1. 日本分子生物学会ホームページ <https://www.mbsj.jp/> にアクセスする。
2. ログインID(6桁の会員番号)とパスワードを入力し、会員専用ページに入る。
3. 電子投票「理事選挙」をクリックし、「電子投票注意事項」ページを読む。
4. **重要** 投票は、投票者(被選挙権者)の会員番号入力により行われるので、事前に、投票したい会員10名以内の会員番号を調べて、手元に控えておく。
※会員番号は次のいずれかの方法でお調べください。
 - ①理事候補者参考リスト(選挙ページ内にも会員番号付参考リストが掲載されています)
 - ②会員専用ページ内の会員名簿(会員検索・閲覧)
 - ③被選挙権者名簿(選挙ページ内PDF版)
5. 「投票者入力画面」へアクセスし、10名以内の会員番号を入力し、「登録」ボタンをクリックする。
6. 「確認画面」にて投票した会員を確認し、内容に間違いがなければ、「投票」ボタンをクリックする。
7. 最終確認の表示「投票を行います。よろしいですか?」が出たら、OKをクリックする。
8. 投票完了。

投票期間中は、被選挙権者の会員専用ページ上における「所属の名称・部署」が公開設定となります。これらの項目を非公開設定としている会員はあらかじめご承知おきください。また、自宅を連絡先に設定している被選挙権者の「所属の名称・部署」は、「自宅の都道府県名+在住」と表示されます。(例:東京都在住)

○選挙結果の告知

投票結果は会報127号(11月発行)および学会ホームページで、会員の皆様にお知らせします。

2020年6月10日
特定非営利活動法人 日本分子生物学会
第22期理事選挙・選挙管理委員会
委員長 菱田 卓
委員 斉藤典子、丹羽隆介

【参考】 定 款 (抜粋)

第3章 役 員

(種別及び定数)

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 25人以上 35人以内
 - (2) 監事 1人以上 3人以内
- 2 理事のうち、1人を理事長とし、2人以内の副理事長を置くことができる。

(選任等)

- 第14条 理事は、正会員及び次世代教育会員の中から、正会員、名誉会員、シニア会員、次世代教育会員及び学生会員の投票により選任される。
- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
 - 3 役員のうちには、それぞれの役員について、

その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることにはならない。

- 4 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。
- 5 監事は、正会員の中から、総会において選任する。
- 6 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職 務)

- 第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

(任期等)

- 第16条 理事、理事長及び副理事長の任期は、2年とする。ただし、3期連続して選出されることはできない。
- 2 監事の任期は、2年とする。ただし、2期連続して選出されることはできない。
 - 3 補欠のため、又は増員により就任した役員
の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
 - 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

『参考』 細 則 (抜粋)

第2章 役員の選出

第2条

理事は、次の各号に掲げる方法により選出する。

- 1) 理事長は、正会員の中から3名を選出し、選挙管理委員を委嘱する。選挙管理委員により構成する選挙管理委員会は選挙事務を行う。
- 2) 投票は1人1票、無記名による10名連記とし、別に定める方法により投票を行う。
- 3) 得票者中の上位の者より順に30名を選出する。ただし、同数得票者については選挙要項に従い順位を定める。
- 4) 理事は3期連続して選出されることはできない。この制限に抵触する者の氏名は選挙要項に公告される。
- 5) 時限特別措置として、理事定員30名の20% (6名)の女性理事枠を設ける。選挙により6名の女性当選者が選出されなかった場合は、女性理事が最低6名になるまで調整を行う。ただし、理事定員30名に変更はないものとする。

定款及び細則の全文は本学会のホームページからご確認いただけます。

※ <https://www.mbsj.jp/> → 学会概要 → 定款・細則

会員専用ページ 領収証発行オンライン化のお知らせ

この度、学会ホームページの「会員専用ページ」に、領収証発行機能を追加いたしました。年度会費をクレジット決済にてお支払いいただいた場合、「会費納入状況」ページに表示される「出力」ボタンをクリックし、ブラウザの印刷機能もちいて出力してください。

なお、学会よりお送りする年度会費請求書（払込取扱票）によるお支払いは、オンライン領収証発行の対象ではありません。お支払いの際に発行される受領証が正式な領収証となりますので、大切に保管してください。

ログインパスワードの再設定について

会員専用ページのログインパスワードをご不明の場合は、ログイン画面よりオンラインで再設定が可能です。再設定には、「会員番号」と「会員専用ページに登録されているメールアドレス」が必要となります。

個人情報の保護を考慮し、現在登録されているパスワードは電話ではお答えできませんのでご了承ください。

※「登録されているメールアドレス」が不明または受信不可の場合は、オフラインでの手続きとなります。学会ホームページより所定の再発行申請書をダウンロードし、必要事項をご記入・ご捺印（自筆の署名可）のうえ、学会事務局へご提出ください。新パスワードは数日中に郵送いたします。

※「会員番号」は、年度会費請求書または会報宛名台紙に会員番号が印字されております。

お手元に学会からの郵送物がなくご確認いただけない場合は、学会事務局までお問合せください。

会員専用ページの機能

| | |
|-------------------|--|
| 登録情報確認・変更 | 学会に登録されている本人情報（会員種別・所属・入会年月日等）を確認・変更できます。 |
| 公開情報設定 | 会員検索で公開する本人情報の項目を設定できます。（名前・会員番号・会員種別は、非公開の設定ができません） |
| 会費納入状況の確認とクレジット決済 | 会費納入状況を確認できます。また、未納会費のクレジット決済が可能です。（手数料は一切かかりません） クレジット決済した会費の領収証を印刷できます。 |
| パスワード変更 | 会員専用ページにアクセスするためのパスワードを変更できます。 |
| 会員検索・閲覧 | 以前の会員名簿に代わるものとして、本学会に所属している会員の検索ができます。（会員が「非公開」設定にしている項目は、検索・閲覧できません） |
| 年会アーカイブ | 第38回～第42回（2015～2019年）年会の要旨検索・閲覧ができます。 |

第10回(2020年) 富澤基金による研究助成の審査経過・結果報告

基金運営委員会委員長 小原 雄治

「日本分子生物学会若手研究助成富澤純一・桂子基金」による第10回研究助成の選考を5月9日に行いました。応募者は131名、お名前からの推定で男性106名、女性25名でした。書面審査により12名の方をヒアリングにお招きし、研究内容および研究環境等について伺った結果、以下に示す6名の方に決定しました。今回は新型コロナウイルス対応のために対面でのヒアリングは困難でしたので、候補者、委員ともリモート参加によるWEB会議形式で行いましたが、事務局の尽力により、海外からの参加も含め比較的スムーズに進められたと思います。審査にあたっては、これまで通り性別への配慮や特定の立場を優先ということはありませんが、結果的に、助成対象者は男性4名女性2名となりました。また、審査過程では応募者が日本分子生物学会会員か否かは非開示でしたが、これも結果的に助成対象者4名が会員、1名が元会員、1名が非会員でした。研究の発展を期待します。

富澤基金の目的とするところは、生命科学の新しい展開を目指す研究を志しながらも、研究費の欠乏や生活上の制約のために十分に力を発揮できていない若手研究者に、使途を限定しない助成を行って、研究の発展を可能にさせることです。公募要領に「申請者の単独研究、または申請者が中心になって行っている共同研究を対象とします」とありますように、審査にあたっては申請者の独自性を重視しました。自らが知りたいことを自らが工夫して明らかにしていくことは科学の原点ですが、これができるのは若手の特権と言えます。もちろん、それを実現するためには論理的かつ緻密な計画が必要ですし、それを裏付ける研究実績も必要です。これらの点を考慮した上で、申請者の個性に裏打ちされた独自性の高い提案を選びました。ヒアリング課題はすべて高いレベルの提案でしたし、それ以外にも優れた提案は多数ありましたが、本助成はこれまでの研究業績に対する褒賞ではありませんし、他の研究資金でその大半は実行可能というような場合には、助成の必要度は低いと判定せざるを得ないこともありました。これらの方針は第1回からずっと堅持されてきたものです。

第1回からこの間、延べ1,197名の応募をいただき、合計50名を助成してきましたが、人数の制限から助成に至らなかった方、ヒアリングに呼ばなかった方にも多くの優れた研究計画がありました。本助成は今回の第10回で終了となりますが、今後とも、上記の審査基準に合うような個性に裏打ちされた独自性の高い研究を追求されることを特に若手に期待したいと思います。

最後に、過去10回の公募において積極的に研究提案をいただいた応募者の皆さま、学会業務で多忙な中での確に事務処理をしていただいた事務局の皆さま、関係者の皆さま、そしてなによりもこのような場を与えてくださった富澤純一先生に厚くお礼申し上げます。

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」基金運営委員会

委員：小原 雄治(委員長)、林 茂生(副委員長)、阿形 清和、

大杉 美穂、黒田 真也、後藤由季子、東山 哲也、深川 竜郎

■第10回(2020年)日本分子生物学会 若手研究助成の助成対象者

(氏名・所属機関・研究題目) 50音順

- 岡本 直樹(筑波大学 TARA センター / 申請時の所属はカリフォルニア大学リバーサイド校昆虫学分野)
神経・内分泌系による発生過程における生得的行動調節機構の解明.
Elucidation of the neuroendocrine control of innate behavior during development.
- 古藤 日子(産業技術総合研究所生命工学領域生物プロセス研究部門)
アリの社会的な養育行動を介した表現型多型制御メカニズムの解明
Regulatory mechanisms of polyphenism via social nursing behavior in ants
- 金 尚宏(東京大学理学系研究科生物科学専攻)
カルシウムクロック:概日時計の普遍原理の追求
Calcium clock: Exploration of universal mechanism of circadian clock
- 田渕 理史(Department of Neurosciences, Case Western Reserve University School of Medicine)
アルツハイマー病の治療標的探索に向けた睡眠剥奪依存的な神経細胞の過剰興奮機構の解明と制御
Control of Sleep Deprivation-induced Neuronal Hyperexcitability for Alzheimer's Disease Pathogenesis
- 藤井 壮太(東京大学大学院農学生命科学研究科)
植物の生殖初期過程における同種選択の分子メカニズム
Understanding the molecular mechanism for sexual selection in plants
- 星野 歩子(東京工業大学生命理工学院 / 申請時の所属は東京大学 IRCN)
がんにおけるエクソソームのプロテオミクス:がん診断バイオマーカーの解析
The exosomal protein in cancer as a biomarker potential

第9回(2021年)日本分子生物学会国際会議支援 助成決定会議のご報告

第9回めとなる日本分子生物学会国際会議支援については、選考委員会における慎重な審査を経て、以下の会議が採択されました。ここにご報告いたします。

第21期国際会議支援・選考委員会

石川 冬木(委員長)、荒木 弘之、五十嵐和彦、一條 秀憲、佐谷 秀行

■会議名称:

(和文) 第10回MDM2国際ワークショップ

(英文) 10th MDM2 International Workshop

開催責任者: 大木理恵子(国立がん研究センター研究所・独立ユニット長)

会 期: 2021年9月26日(日)~29日(水)

会 場: 国立がん研究センター 新研究棟

助成金額: 250万円

■会議名称:

(和文) 第11回国際分裂酵母会議

(英文) The 11th International Fission Yeast Meeting (Pombe 2021 Hiroshima)

開催責任者: 登田 隆(広島大学大学院統合生命科学研究科・特任教授)

会 期: 2021年6月6日(日)~11日(金)

会 場: JMS アステールプラザ広島(広島市)

助成金額: 250万円

分子生物学会による、国際会議支援システム

(参加登録~演題受付~カード決済/ Web 運用) 利用のご案内

分子生物学会では、日本発の国際会議を学会が支援するために経済的支援を行うことに加え、国際会議を開催する研究者の事務的な負担を減らすため、支援システム(JTB 西日本 MICE 事業部による国際会議トータル支援システム/Web 運用)をご用意しております。国際会議支援の詳細は同公募要項の中に書かれておりですが、同支援事業の応募とは別に、システムのみを使用されたいとの希望者につきましては、分子生物学会の会員であれば同額での利用が可能です。

システムのみを使用されたい場合は、学会事務局(分子生物学会 国際会議支援システム・システム利用係り E-mail: info@mbsj.jp)まで E-mail にて、開催概要と連絡先を明記のうえ、お申込みください。(一旦、学会を経由してから、JTB の担当者をご紹介します)

《支援システムの概要》

本学会が JTB 西日本 MICE 事業部と長期契約を交わ

したことにより、JTB 西日本 MICE 事業部による国際会議トータル支援システムを通常より割安価格で利用できます。

- ①基本システム代金: 23 万円(事前参加登録受付・演題投稿受付・クレジットカード決済等の基本システム設定)
- ②オプション/メイン HP 代金: 25 万円(全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理 12 ヶ月・更新メンテナンス 12 ヶ月)
- ③オプション/オンライン査読システム: 8 万円
- ④オプションその他、が利用できます。(メニュー詳細については、一旦、学会を経由した後、JTB の担当者が説明いたします)

なお、この支援のみを受ける場合も、分子生物学会の支援(システム利用)を受けたことを当該会議の HP、要旨集などに明記いただきます。

キャリアパス対談 第9回：斉藤典子×花嶋かりな

委員：斉藤典子（がん研）、
花嶋かりな（早稲田大・教育・総合科学）
日時：2020年3月23日（月）13：15～15：15
場所：TKP品川カンファレンスセンター
ミーティングルーム6J

キャリアパス委員会企画の年会ランチョンセミナーで参加者の皆さんからリクエストが多いテーマに、「研究者のキャリアパス」「PIになるには」「研究とライフイベントの両立」などがあります。今回、本委員会で男女共同参画学協会連絡会の連絡委員を務める斉藤委員と花嶋委員に対談していただいたところ、これらのテーマいずれにも関係する内容となりました。おふたりとも、海外留学、そして大学と研究機関の両方に所属された経験がある女性PIとして、ラボの内外でさまざまな相談が寄せられているようです。

（第21期キャリアパス委員会 委員長 胡桃坂仁志）

【斉藤】花嶋先生のラボは若い人がたくさんいますよね。

【花嶋】はい、学生が多いです。斉藤先生のところは、学生さんはおられるのですか？

【斉藤】私のラボは今、博士を持つ研究者が5人くらいで、大学院生は1～2名、学部生はいません。将来独立を希望している人にはそのために必要だと思うことを伝えますが、PIを目指すのではなく、純粋にサイエンスを続けたいという人もいます。海外で確立されてきたシニアサイエンススタッフのようなポジションが日本にもあるといいのですが。

【花嶋】日本の大学では、PIになるか、サイエンス（アカデミア）をやめるか——企業に例えるなら全員社長になるか、社員がいなくなってしまうか、みたいになってしまっているような印象ですね。

【斉藤】そうですね。実験系の論文など、書き始めてから1～2年かかるようなものもありますし、3年という任期は特に生物の研究者にとってはかなり厳しいです。そこに、乳幼児を育てるといったライフイベントが入ると、どうなることか…。

分子生物学会の会員比率をみると、学生会員の4割は女性ですが、正会員に占める割合は2割です。出産や育児に専念しようと思った人以外にも、キャリアをあきらめてしまった人も中にはいるのではないのでしょうか。



シニアサイエンススタッフのような安定した職、あるいは一度ライフイベントに注力してまた研究に戻ってこられるパスを作ることが求められているのでしょうか。お子さんを育てる時には、研究を続けながらも子どもファーストの時期を持ち、一段落したら研究メインに戻ってこられるというような。

【花嶋】アメリカにいた頃、ラボのメンバーはファミリーと仕事の垣根が低いと感じていました。日本では仕事とプライベートをきっちり分ける傾向がありますが、バランスを取れる環境なら「両立しなくちゃ！」というプレッシャーが軽減できるかもしれません。私がポスドクで行ったラボでは、ボスとのミーティング中に奥さんからの電話が何度もかかってきたり、実家の親と電話で喧嘩している人などもいました（笑）。

近年、海外へ行こうという人が減ってきているようですが、若手から留学などの相談を受けることも多いと思います。

【斉藤】はい。アプライや留学については「あなたがやりたくて、家族を犠牲にしないなら」と積極的にチャレンジすることを勧めています。

海外でいいラボに行くと、「隣のベンチで研究していた人があの国際学会でオーガナイザーをやっている」なんてことになる、お手本にも刺激にもなって良いですよ。ただ、一度海外に行ったら帰ってこれないのではないかという不安もあるようです。

【花嶋】以前キャリアパス委員会のアンケートで「PIになるために必要なもの」を尋ねたところ、PI自身の回答では「研究実績」に加えて「運」が意外と多かったのです。とりあえず海外へ出て好きなことをやってきた人が結果的にうまくいったということなのかもしれません。

【斉藤】すごく勇気が出ます。

【花嶋】理研にいたときも、どんな人がPIになるかを見ていたら、確かに皆さんすばらしい経歴なのですけれど、好きで研究に打ち込んでいる人たちでした。海外の大御所のPIと話していても、やはり面白いサイエンスをやっている人が彼らと仲良くなれるみたいですね。

【斉藤】そうそう。共通の通貨を持っている、みたいな。サイエンスの内容が面白い話をしてくれる人は魅力的ですよ。

【花嶋】全人口のうち男性と女性の比率は半々ですけれど、研究者の比率は1%未満であることを考えると、まず研究者であるという共通点を大切にしたいですね。

私も、女性の学生から「やっていける自信がない」と相談を受けることがあります。自分が研究員だった時も、サイエンスがすごいと思う人は性別に関係なくいたのですが、女性のPIで研究と家庭を両立している人がいると、とても参考になるなと思いました。

【斉藤】お子さんができると年會に参加しにくくなるというのは確かですよ。託児室を利用できるのはありがたいけれども、参加するとヘトヘトになります。預け先がある場合は、綿密にプランを立てます。山のような荷物を準備して、持ち物に名前を書いて…、全部自分でオーガナイズするんですよ。でも、そこまで準備して、子どもが熱を出したら年會には不参加、頼んでいた預け先も航空チケットも全てキャンセル、といった手配をすることになって。私は子育ての早い段階で母に来てもらうことができ、感謝するとともに、何かズルしているような気持ちになっていましたが、それでも母がいれば「ごめんお願い！」ができる。年會に託児室があることはもちろん重要ですが、それで十分ということではなくて、利用者の負担を少しでも減らせるように努められると良いと思います。



花嶋委員

花嶋先生は「小1の壁」(学童保育は子どもを預かってもらえる時間が保育園より短いなど、子どもが保育園から小学校に上がるタイミングで子育てと仕事の両立が難しくなることの比喩)をどうやって乗り越えました？

【花嶋】それが幸運なことに、ちょうど子どもが小学校に上がるタイミングで、ママ友の多い学区に引っ越すことができました。それでもう、お互いに助け合っていました。

【斉藤】すばらしい。それ、いいアイデアですね。

【花嶋】でも、今も時々ズルしています。母だけでなく義母まで遠方から来てくれることもありまして。喜んで来てくれるので、申し訳ないのですが本当にありがたいです。

【斉藤】やはりなかなか大変ですよ。ただ、この託児マネジメントはラボマネジメントのトレーニングにもなるので、子育てに男性も入ったらいいだろうなと思います。

【花嶋】確かに、子どもが生まれてからのほうが仕事を効率よくこなせるようになった人もいますね。子どもをお風呂へ入れてラボに帰ってくる男性もいますし、研究者って結構フレキシブルで子育ての環境に恵まれているのかもしれない。

【斉藤】男女共同参画の問題は世界共通なようで、先日の国際シンポジウムでも、ヨーロッパの錚々たる女性研究者から経験談をおうかがいしました。その中には、出産後数週間でレビューを受けなければならなかった、というものもありました。

【花嶋】日本より海外のほうが進んでいるイメージがありますけれど、必ずしもそうとも言えないですね。

【斉藤】改善を求めて不満の声を上げているかどうか、その声の大きさの違いに過ぎないのかもしれませんが。ヨーロッパの研究者は日本の女性研究者に対して「何だかおとなしい」ともどかしさを感じているようです。

【花嶋】どのようなシンポジウムだったのですか？

【斉藤】クロマチン・エピジェネティクスの分野に、スーザン・ガッサーという著名な女性研究者がおり、スイスFMIの研究所長を昨年末までされていました。ご縁あって日本の女性研究者数名と一緒に懇意にさせていただいて

いました。あるとき、日本の女性研究者は海外のシンポジウムで講演することが少ないので機会を作ろう、という話になり、日本で国際シンポジウムを開くことになりました。

午前中はサイエンティフィックなセッション、お昼にEMBO Journalのチーフエディターを招いたランチョンセミナーを挟んで、午後にはEMBOのラボマネジメントに関するコースを開催。これは、研究を展開するために必要なリーダーシップ、研究の統括、問題解決、若手研究者の育成、危機管理など、講義と小グループに分かれてのディスカッションを行い、独立型研究室の運営を論理的に学ぶというもので、欧米では一般的となりつつありますが、日本ではまだなじみのないものです。通常だと数日間の合宿で行い、参加費用もそれなりにかかりますが、今回はその短縮版ということで破格の参加費で実現できました。スーザンの尽力で、ヨーロッパの所長・教授クラスの人たちが費用負担で参加してくれたからです。

【花嶋】男性の参加も可能だったのですか？

【斉藤】はい。オープンに募ってみたところ、ありがたいことに参加者は100名くらいで、男女半々でした。

【花嶋】面白そうですね。女性PIならではの問題、「どうNOと言うか」についてのプラクティカルなレクチャーがあったら、参考にしたい人は多いかもしれません。どのような内容だったのですか。

【斉藤】彼女たちが選んだテーブルディスカッションのテーマはこんな感じでした。“Combining Family and Career”, “Interpersonal relationships (unconscious bias)”, “Mentoring students & postdocs”, “Problem solving and conflict resolution”, “Publication strategies”, “Lab coherence and communication tools”, “How to survive your stress and enjoy it”

(「家庭とキャリアの両立」「対人関係(無意識のバイアス)」「学生・ポストドクの教育指導」「問題解決」「論文報告の戦略」「研究室内コミュニケーション」「ストレスをどう乗り切り、どう楽しむか」)

研究者は「PIになったらすべてを会得した人」というわけでは全くなく、例えばラボの立ち上げやマネジメントなどについての情報がなくて路頭に迷う人も多いと思います。

【花嶋】そうですね。私も立ち上げの時が一番大変でした。立ち上げたばかりのラボは、経験豊富な人材を集めるのが難しいかもしれません。



斉藤 委員

【斉藤】そう、人の雇用もラボマネジメントのひとつですよね。時には予算を確保できるか確実にない中、腹を括って雇用が先行することもありました。

【花嶋】私のラボには、若くて何でも吸収してくれる人が来てくれましたが、確かに、PIのそういうことをあらかじめ知る機会は、まだ少ないかもしれませんね。

【斉藤】そういう意味でも、さきほどの国際シンポジウムのような機会が日本にも根付き、多くの人に活用してもらえるよう、第2弾は東大の岡田由紀(教授)さんが主導します。第2弾は分子生物学会の2020年会でサテライトミーティング、関連ワークショップやフォーラムとして開催することを目指しています。

【花嶋】年会といえば、先日、とあるミーティングで塩見美喜子先生(初代キャリアパス委員長・2021年会長)とお会いした時、「年会で、あえて運営側では人為的なことを何もしないでみたらどうなるかしら」というようなことをおっしゃっていました。例えばシンポジウムやワークショップの企画の際、女性研究者のビジビリティ向上のために女性研究者のオーガナイザーやスピーカーの起用を特に呼びかけたりはせず、自然に任せてみる、ということかと思います。

【斉藤】確かに、推さないに進まないというところもあるのでしょうか、アファーマティブアクションというか、下手に推しすぎるのがあるのかどうか、塩見先生はおそらくそういったこともお考えになられたのではないのでしょうか。

【花嶋】最近よくみられる女性限定の求人公募は人員構成比などの問題で仕方がないにしても、「同じ能力と判断される場合、女性を優先して採用します」というのは、少し疑問に思います。悩ましいところですけど、同じ能力なら確率50%とするのがフェアなはずなので。

ある大学の先生から、教員公募の採用で人事担当者が女性だと女性の応募が増える傾向があるという話を聞いたことがあるのですが、女性の名前が前面に出ることもやはり重要なのでしょうか。

【斉藤】 重要と思います。でも女性の先生がトップになると女性が増えるというのは、逆にちょっと残念ですね。そうでなくても手を挙げるような、“変わった”女性が増えてほしいですね。

【花嶋】 女性研究者の第一世代は本当に稀な存在で、たぶん何事も戦っていかなければならなかった。第二世代が私たちの先輩で、女性研究者のスタンスを作り上げてくださった。現代は、女性の進出をプッシュしようというなかで色々仕事が増えてくる。大変ではあるのですが、近い将来の理想としては、「男女共同参画」ということを意識せずサイエンスに集中できる環境を整えるところまで行けるといいのかなと。

【斉藤】 男性だけでやっていたことに女性を入れてみたら、頭打ちだったものが成功した、ということもあるの

ではないでしょうか。そうした例を積み重ねて可視化する、事実を蓄積できたらいいなと思います。あとは何より、女性が楽しく元気にやっている姿を地道に示していくのが一番ですね。

実際、年会のオーガナイザーやスピーカーはものすごく責任があると言われるんですけど、やってみると楽しいですよ。過剰な責任感を取っ払って、「あの人もできるんだから私にもできる！」くらいに思ってもらえると嬉しいですね。



学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の選考委員会審査用に、上記申請書類のコピー計6部
- 3) 論文（別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です）
- 4) 上記1) 2) 3) の送付とは別に、学会用控として申請書の電子データ（論文は不要）を学会事務局（info@mbsj.jp）まで送信して下さい。
電子データは Word、PDF ファイルのいずれでも結構です。
*必ず学会の締切日までに郵送資料と電子データの両方が到着するようにご手配下さい。

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 正井 久雄
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 吉森 保
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がありましたら、学会事務局までお問い合わせ下さい。

※研究助成（学会推薦）に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

※各種学術賞（学会推薦）に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり1件となっておりますので、ご了解ください。
（本学会の事業年度は10月1日から翌年9月30日までです）
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いいたします。

学術賞、研究助成一覧

| 名 称 | 連 絡 先 | 件 数 | 締 切 | 助成内容等 | 概 要 |
|--------------------------------------|---|------------------------------|--|--|--|
| 第 51 回三菱財団 自然科学研究助成 | (公財)三菱財団 〒 100-0005 千代田区丸の内 2-3-1 TEL : (03) 3214-5754 | 総額 3 億 6,000 万円 | 2020 年 2 月 5 日 | 1 件当たり 2,000 万円まで | 自然科学のすべての分野にかかわる独創的かつ先駆的研究を支援。2019 年および 2020 年度は 50 周年記念特別助成として「若手助成」を実施。 |
| 山田科学振興財団 2020 年度研究援助 | (公財)山田科学振興財団 〒 544-8666 大阪市生野区巽西 1-8-1 TEL : (06) 6758-3745 | 15 件程度 (本学会の 推薦枠は 5 件) | 2020 年 2 月 28 日 | 1 件当たり 100 ～ 500 万円、 総額 3,000 万円 | 自然科学の基礎的研究に対しての研究費援助。 「推薦書は山田財団 HP より ダウンロード [http://www.yamadazaidan.jp/] |
| 山田科学振興財団 国際学術集会開催助成 (2023 年開催) | | 総額 800 万円以内 | 2020 年 4 月 1 日～ 2021 年 2 月 28 日 (募集期間) | 総額 800 万円以内 | 以下の要件を満たす学術集會を山田コンファレンスもしくは山田シンポジウムと称し、これらの開催を援助する。 ①基礎科学の適切なテーマについて、国際的視野で最高レベルの研究を総括する。 ②研究者の世代間の対話によって、若い世代の研究の発展の基礎を構築する。 ③異分野間の交流を図り、cross-disciplinary な討論を通じて新しい発展を模索する。 詳細 山田財団 HP 参照。 |
| 第 36 回国際生物学賞 | 国際生物学賞委員会 〒 102-0083 千代田区麹町 5-3-1 日本学術振興会内 TEL : (03) 3263-1724 | 1 件 (1 件) | 2020 年 4 月 10 日 | 賞状、賞牌、 1,000 万円 | 生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ、世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者。授賞分野は、国際生物学賞委員会が毎年決定する。授賞分野は、国際生物学賞委員会が毎年決定する。第 36 回の授賞分野は「環境応答の生物学 (Biology of Environmental Responses)」。 |
| 2020 年度 持田記念学術賞 | (公財)持田記念医学薬学振興財団 〒 160-0003 新宿区四谷本塩町 3-1 四谷ワイズビル TEL : (03) 3357-1282 | 2 件以内 (1 件) | 2020 年 5 月 18 日 | 1 件 1,000 万円 | 学術賞は次の 6 項目の研究分野で、研究の進歩発展のため顕著な功績のあった研究者に贈呈。 (1)バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究 |
| 2020 年度 研究助成 | | 総額 3 億 4,500 万円 115 件 | 2020 年 5 月 7 日 | 1 件 300 万円 | (2)バイオ技術を基盤とするゲノム機能 / 病態解析に関する研究 (3)免疫 / アレルギー / 炎症の治療ならびに制御に関する研究 |
| 2020 年度留学補助金 | | 総額 1,000 万円 20 件 | 2020 年 5 月 13 日 | 1 件 50 万円 | (4)循環器 / 血液疾患の病態解析 / 治療制御に関する研究 (5)創薬・創剤の基盤に関する研究 (6)創薬の臨床応用に関する研究 |
| 2021 年度笹川科学 研究助成 | (公財)日本科学協会 〒 107-0052 港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル TEL : (03) 6229-5365 | 生物系で 144 件 (2019 年度実績) | 募集期間 2020 年 * 9 月 17 日～ 10 月 15 日 | 1 件当たり 100 万円まで | 人文・社会科学および自然科学(医学を除く)の独創性・萌芽性をもつ研究に関するもの。4 月 1 日現在、35 歳以下の若手研究者へ助成。 |
| 上 原 賞 | (公財)上原記念生命科学財団 〒 171-0033 豊島区高田 3-26-3 TEL : (03) 3985-3500 | 2 件以内 (1 件) | 2020 年 * 9 月 3 日 | 金牌、 3,000 万円 | 生命科学の東洋医学、体力医学、社会医学、栄養学、薬学一般および基礎医学、臨床医学で顕著な業績を挙げ、引き続き活躍中の研究者。 |
| 第 37 回井上学術賞 | (公財)井上科学振興財団 〒 150-0036 渋谷区南平台町 15-15-601 TEL : (03) 3477-2738 | 5 件以内 (2 件) | 2020 年 9 月 20 日 | 賞状、金メダル、 200 万円 | 自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を挙げた者(ただし締切日現在、50 歳未満の者)。 |
| 第 37 回井上研究奨励賞 | | 40 件 | 2020 年 9 月 20 日 | 賞状及び銅メダル、 50 万円 | 過去 3 年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の自然科学の基礎的研究において、新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出し博士の学位を取得した研究者で、37 歳未満の者。 |
| 第 13 回井上リサーチ アワード | | 4 名以内 (うち 1 名以上 女性研究者) | 2020 年 7 月 31 日 | 1 人当たり 500 万円 | 開拓的発展を目指す若手研究者の独創性と自立を支援する目的で、研究を助成。研究期間は 2 年。 |

| 名 称 | 連 絡 先 | 件 数 | 締 切 | 助成内容等 | 概 要 |
|---|--|---|--|------------------------------|---|
| 第 29 回木原記念財団 学術賞 | (公財)木原記念横浜生命科学 振興財団 〒 230-0045 横浜市鶴見区末広町 1-6 TEL : (045) 502-4810 | 1 件 (1 件) | 2020 年 * 9 月 30 日 | 賞状、 200 万円 | 生命科学の分野で優れた独創的 研究を行っている国内の研究者 であり、今後のさらなる発展が 大きく期待できる者。原則とし て締切日現在 50 歳以下を対象と する。 |
| 第 4 回バイオ インダストリー大賞 | (一財)バイオインダストリー協会 〒 104-0032 中央区八丁堀 2-26-9 グランデビル 8F TEL : (03) 5473-2731 | 1 件 | 2020 年 4 月 20 日 | 賞状、賞牌、 副賞 300 万円 | バイオサイエンス、バイオテク ノロジーおよびバイオインダス トリーの分野の発展に大きく貢 献した、または今後の発展に大 きく貢献すると期待される業績 を上げた個人、少人数のグルー プまたは組織に授与される。 |
| 第 4 回バイオ インダストリー奨励賞 | (公財)住友財団 〒 105-0012 港区芝大門 1-12-6 住友芝大門ビル 2 号館 TEL : (03) 5473-0161 | 10 件以内 | 2020 年 4 月 20 日 | 賞状および 副賞 30 万円 | バイオサイエンス、バイオテク ノロジーに関連する応用を指向 した研究で、 ④医薬・ヘルスケア ⑤食品・第一次産業 ⑥化学・材料・環境・エネルギー などの分野で産業を生み出す研 究であり、これらの分野に携わ る有望な若手研究者を対象とす る。年齢 45 歳未満。 |
| 住友財団 2020 年度 基礎科学研究助成 | (公財)藤原科学財団 〒 104-0061 中央区銀座 3-7-12 TEL : (03) 3561-7736 | 総額 1 億 5,000 万円 90 件程度 | 2020 年 6 月 30 日 (データ送信の 締切日: 6 月 9 日) | 1 件当たり 500 万 円まで | 理学(数学、物理学、化学、生物学) の各分野及びこれらの複数にま たがる分野の基礎研究で萌芽的 なもの。若手研究者(個人また はグループ)を対象とする。 |
| 第 62 回藤原賞 | (公財)藤原科学財団 〒 104-0061 中央区銀座 3-7-12 TEL : (03) 3561-7736 | 2 件 (1 件) | 2020 年 * 12 月 11 日 | 副賞 1,000 万円 | 推薦の対象は自然科学分野に属 するもの。わが国に国籍を有し、 科学技術の発展に卓越した貢献 をした者。 |
| 科学技術分野の 文部科学大臣表彰 科学技術賞および 若手科学者賞 | 文部科学省 研究振興局振興企画課奨励室 〒 100-8959 千代田区霞が関 3-2-2 TEL : (03) 6734-4071 | 科学技術賞 88 件(年)のうち、 研究部門は 43 件(31 年度) 若手科学者賞 は 100 名程度 (学会推薦枠は定 まっていないが推 薦は若干名まで) | 2020 年 * 7 月 25 日 | 表彰状及び副賞 | 我が国の科学技術の発展等に寄 与する可能性の高い独創的な研 究又は発明を行った個人又はグ ループを表彰。 萌芽的な研究、独創的視点に立 った研究等、高度な研究開発能 力を示す顕著な研究業績を挙げ た 40 歳未満の若手研究個人。 |
| 2020 年度島津賞 | (公財)島津科学技術振興財団 〒 604-8445 京都市中京区 西ノ京徳大寺町 1 TEL : (075) 823-3240 | 1 件 (推薦件数に制 限なし) | 2020 年 7 月 31 日 | 賞状、賞牌、 副賞 500 万円 | 科学技術、主として科学計測に 係る領域で、基礎的研究および 応用・実用化研究において、著 しい成果をあげた功労者を対象 とする。 |
| 2020 年度島津奨励賞 | (公財)島津科学技術振興財団 〒 604-8445 京都市中京区 西ノ京徳大寺町 1 TEL : (075) 823-3240 | 3 件 (推薦件数に制 限なし) | 2020 年 7 月 31 日 | 賞状、トロフィー、 副賞 100 万円 | わが国の科学技術振興を目的と して、科学技術、主として科学 計測に係る領域で、基礎的研究 および応用・実用化研究におい て独創的成果をあげ、かつその 研究の発展が期待される研究者 を表彰する。対象者は 45 歳以下。 |
| 島津科学技術振興 財団研究開発助成 | (公財)東レ科学振興会 〒 103-0021 中央区日本橋本石町 3-3-16 (日本橋室町ビル) TEL : (03) 6262-1655 | 総額 2,300 万円 | 2020 年 7 月 31 日 | 1 件 100 万円 | 科学技術、主として科学計測に 係る領域で、基礎的研究を対象 とする。国内の研究機関に所属す る 45 歳以下の新進気鋭の研究者。 国籍不問。 |
| 東レ科学技術賞 | (公財)東レ科学振興会 〒 103-0021 中央区日本橋本石町 3-3-16 (日本橋室町ビル) TEL : (03) 6262-1655 | 2 件以内 (2 件) | 2020 年 10 月 9 日 | 1 件につき 賞状、金メダル、 500 万円 | 理学・工学・農学・薬学・医学(除 臨床医学)の分野で、学術上の 業績顕著な者、学術上重要な発 見をした者、効果が大きい重要 な発明をした者、技術上の重要 問題を解決し貢献が大きい者。 |
| 東レ科学技術研究助成 | (公財)東レ科学振興会 〒 103-0021 中央区日本橋本石町 3-3-16 (日本橋室町ビル) TEL : (03) 6262-1655 | 総額 1 億 3,000 万円 10 件程度 (2 件) | 2020 年 10 月 9 日 | 特に定めず最大 3,000 万円程度 まで | 今後の研究の成果が科学技術の 進歩・発展に貢献するところが 大きいと考えられる、独創的、 萌芽的な研究を活発に行ってい る若手研究者(原則として 45 歳 以下)。 |
| ノバルティス研究 奨励金 | (公財)ノバルティス科学振興財団 〒 106-6333 港区虎ノ門 1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー 29F TEL : (03) 6899-2100 | 約 35 件 指定機関から の推薦必要 | 2020 年 * 9 月 11 日 | 1 件 100 万円 | 生物・生命科学、関連する化学 および情報科学の領域における 創造的な研究に対して助成。 |

| 名 称 | 連 絡 先 | 件 数 | 締 切 | 助成内容等 | 概 要 |
|-------------------------|--|---|------------------------------------|--|---|
| 第 52 回内藤記念科学振興賞 | (公財)内藤記念科学振興財団 〒 113-0033 文京区本郷 3-42-6 NKD ビル 8F TEL : (03) 3813-3861 | 1 件 (1 件) | 2020 年 9 月 24 日 | 金メダル、 1000 万円 | 人類の健康の増進に寄与する自然科学の基礎的研究において、独自のテーマに取り組み、その進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。 |
| 第 52 回海外学者招へい助成金 | | 前期・後期 各 10 件以内 (前期・後期 各々 1 件) | 2020 年 6 月 1 日・ 9 月 24 日 | 1 件 20 ～ 80 万円 まで (エリアによる) | 同上のテーマに取り組み、国際的に高い評価を得ている外国の研究者を招へいする受入れ責任者(当該学術集会の組織委員長)に助成。 |
| ブレインサイエンス財団研究助成 | (公財)ブレインサイエンス振興財団 〒 104-0028 中央区八重洲 2-6-20 TEL : (03) 3273-2565 | 15 件以内 | 2020 年* 10 月 11 日 | 1 件 80 ～ 100 万円 | 脳科学の広い分野における独自の研究計画への助成。 |
| 塚原伸晃記念賞 | | 1 件 | | 賞牌ならびに 副賞 100 万円 | 生命科学の分野において優れた研究を行っている 50 歳以下の研究者。 |
| 海外派遣研究助成 | | 若干件 | 2021 年* 1 月 10 日 | 1 件 30 万円まで | 我が国における脳科学の研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは短期間の研究者の海外派遣を助成。 |
| 海外研究者招聘助成 | 若干件 | 1 件 30 万円まで | | 脳科学研究分野において独自のテーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の短期間の招聘を助成。 | |
| 2020 年 コスモス国際賞 | (公財)国際花と緑の博覧会記念協会 〒 538-0036 大阪市鶴見区緑地公園 2-136 TEL : (06) 6915-4513 | 1 件 (1 件) | 2020 年 4 月 10 日 | 賞状、メダル、 副賞 4,000 万円 | 花と緑に象徴されるすべての生命現象に関し、地球的視点における生命体相互の関係性、統合の本質を解明しようとする研究や業績を対象とする。 |
| 2021 年度研究助成 | (公財)長瀬科学技術振興財団 〒 550-8668 大阪市西区新町 1-1-17 TEL : (06) 6535-2117 | 20 件程度 | 2020 年* 11 月 2 日 | 1 件 250 万円 | 有機化学(材料化学を含む)及び生化学並びに関連分野における研究が助成対象。 |
| 第 17 回日本学術振興会賞 | (独)日本学術振興会 研究者養成課 「日本学術振興会賞」担当 〒 102-0083 千代田区麹町 5-3-1 TEL : (03) 3263-0912 | 25 件程度 (機関長推薦 扱いとして 学会推薦枠 も若干件あり) | 2020 年 4 月 1 日～ 6 日 (受付日) | 賞状、賞碑、 研究奨励金 110 万円 | 人文、社会科学及び自然科学にわたる全分野が対象。博士の学位を取得しており、国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げた認められた研究者(45歳未満)。 |
| 第 11 回日本学術振興会育志賞 | | 16 件程度 (1 件) | 2020 年 7 月 2 日～ 8 日 (受付日) | 賞状、賞碑、 学業奨励金 110 万円 | 我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程の学生を顕彰(34歳未満)。 |
| (一財)材料科学技術振興財団 山崎貞一賞 | (一財)材料科学技術振興財団 〒 157-0067 世田谷区喜多見 1-18-6 TEL : (03) 3415-2200 | 各分野 1 件 | 2020 年 4 月 30 日 | 賞状、金メダル、 300 万円 | 授賞対象は、「材料」、「半導体及び AI・システム・ソフトウェア」、「計測評価」、「バイオサイエンス・バイオテクノロジー」の 4 分野からなり、うち 2 分野が毎年の授賞対象とされる。論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた業績をあげている者。 |
| 令和 2 年度研究助成 | (公財)光科学技術研究振興財団 〒 430-0926 浜松市中区砂山町 325-6 TEL : (053) 454-0598 | 25 ～ 35 件 総額 5,000 万円 | 2020 年 6 月 30 日 | 助成金総額 約 5,000 万円 | 光科学に関係する研究に対して助成。対象課題有り。 |
| 令和 2 年度 晝馬輝夫 光科学賞 | | 1 件 | 2020 年 6 月 30 日 | 副賞 500 万円 | 日本の光科学の基礎研究や光科学技術の発展に貢献する研究において、独自に独創的な研究業績を挙げた研究者個人。(応募締切時点で 45 歳未満) 外国籍の場合は、日本の大学等公的機関に 5 年以上在籍し、その間に対象となる研究成果の中核を形成された方。 |
| 2020 年度朝日賞 | 朝日新聞社 CSR 推進部 「朝日賞」事務局 〒 104-8011 中央区築地 5-3-2 TEL : (03) 5540-7453 | ここ最近 は 4 ～ 5 件 (1 件) | 2020 年* 8 月 26 日 | 正賞(ブロンズ像) と副賞 500 万円 | 学術、芸術などの分野で傑出した業績をあげ、わが国の文化、社会の発展、向上に多大の貢献をされた個人または団体に贈られる。 |
| 第 32 回加藤記念研究助成 | (公財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 〒 194-8533 町田市旭町 3-6-6 TEL : (042) 725-2576 | 総額 5,000 万円 | 2020 年* 9 月 30 日 | 1 件 200 万円 | バイオサイエンスの基礎分野において、独創的かつ先駆的研究をめざす国内の若手研究者(40歳以下)を支援する。 |

| 名 称 | 連 絡 先 | 件 数 | 締 切 | 助成内容等 | 概 要 |
|-------------------------|---|----------------------------|----------------------------------|---------------------|---|
| 第10回(2021年度)三島海雲学術賞 | (公財)三島海雲記念財団 〒150-0012 渋谷区広尾1-6-10 ジラッフアビル TEL:(03)5422-9898 | 自然科学部門 で2件以内 (2件) | 2020年* 9月30日 | 賞状、 副賞200万円 | 自然科学部門は、食の科学に関する研究が対象。国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により独創的で発展性のある顕著な業績を挙げている45歳未満の若手研究者。 |
| 2020年度三島海雲学術研究奨励金(研究助成) | | 全部門計 60件程度 | 2020年 1月10日 ~2月28日 | 個人研究奨励金は 1件100万円 | 食の科学に関する学術研究。若手研究者および女性研究者の積極的応募を期待する。 |
| 第8回ヤマト科学賞 | ヤマト科学㈱内 ヤマト科学賞選考委員会事務局 〒135-0047 江東区富岡2-11-6 HASEMANビル TEL:(03)5639-7070 | 1件 | 2020年* 11月30日 | 賞状、賞牌、 副賞100万円 | 独創性、創造性に富む、気鋭の研究者を顕彰。対象分野はライフサイエンス、マテリアルサイエンス、インフォメーションサイエンス等の自然科学、技術分野およびその融合領域分野。 |
| 2020年度小野医学研究助成 | (公財)小野医学研究財団 〒541-8526 大阪市中央区道修町2-1-5 TEL:(06)6232-1960 | 12件以内 | 2020年 6月1日~ 7月31日 (受付日) | 1件200万円 | 助成テーマは脂質代謝異常に伴う疾患の病態生理に関する研究(2020年度)①基礎医学②臨床医学③疫学④薬学⑤その他の領域 研究奨励助成は満40歳以下に限る。 |
| 2020年度小野医学研究奨励助成 | | 16件以内 | | 1件100万円 | |
| 第4回早石修記念賞 | | 1件 (1件) | 2020年 8月31日 | 正賞(楯)、 副賞500万円 | |
| 第25回慶應医学賞 | 慶應義塾医学振興基金事務局 〒160-8582 新宿区信濃町35 TEL:(03)5363-3609 | 2件[国内1名、 国外1名] (若干名) | 2020年 3月7日 | メダル、 副賞1,000万円 | 基礎医学・臨床医学ならびに医学に密接に関連した生命科学の諸領域で活躍されている方が対象。 |
| 大隅基礎科学創成財団第4期研究助成 | (公財)大隅基礎科学創成財団事務局 〒226-8503 横浜市緑区長津田町4259 S2-16 TEL:(045)459-6975 | 基礎科学 (一般)で 6~10件 | 2020年 6月30日 | 1件1,200万円まで | 細胞・組織・個体の新しい生理現象の発見とその分子機構の解明をテーマとする基礎研究を支援。 |
| | | 基礎科学 (酵母)で 3件程度 | | 1件500万円まで | 新しい生理現象の発見やその分子機構の解明等、人類と深い関わりのある酵母を対象としたこの生物種ならではの基礎研究をテーマとして支援。 |
| 第2回小林賞 | (公財)小林財団東京事務所 〒106-0032 港区六本木1-7-27 全特六本木ビル East TEL:(03)5575-7525 | 1件 (1件) | 2020年* 9月25日 | 賞状、賞牌、 副賞3,000万円 | 医学、薬学、農学、工学、理学などの生命科学に関する分野において、独創的な研究を行い、顕著な成果を挙げ、さらにその後も当該研究分野の発展が期待される国内の研究者を対象とする。 |
| 2020年度地神芳文記念研究助成金 | 理化学研究所 環境資源科学研究センター内 (特非)酵母細胞研究会 〒351-0198 和光市広沢2-1 TEL:(048)462-1335 | 2~3件 | 2020年 4月17日 | 1件50万円以内 | 酵母あるいは糖鎖に関する研究を助成。基礎あるいは応用の別を問わない。39歳以下を対象者とする。 |
| 2021年度一般研究助成 | (公財)発酵研究所 〒532-8686 大阪市淀川区十三本町2-17-85 TEL:(06)6300-6555 | 全研究課題で 41件 | 2020年 7月31日 | 1件300万円 | 研究課題あり。 (1)微生物の分類に関する研究(分離、分類、保存) (2)微生物の基礎研究(生化学、構造、遺伝、生理、生態、進化など) (3)微生物の応用研究(発酵、生理活性物質、プロバイオティクス、環境保全、バイオエネルギーなど) |
| 2021年度大型研究助成 | | 若干件 | 2020年 7月31日 | 1件1,000万円 | |
| 2021年度若手研究者助成 | | 若干件 | 2020年 7月31日 | 1件300万円 | |

●件数の()内は、応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合、本学会の推薦枠を示しています。

*は、本年度の案内を受取っておらず、昨年締切日を参考に示してあります。

締切日を過ぎているものは、本年度応募は終了していますが、参考資料として掲載しました。

第21期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

阿形 清和 (基生研)

(任期：2019年1月1日～2020年12月31日)

副理事長

佐々木裕之 (九大・生医研)、塩見美喜子 (東大・理)

理事

| | |
|------------------|-------------------------|
| 荒木 弘之 (遺伝研) | 五十嵐和彦 (東北大・医) |
| 石川 冬木 (京大・生命) | 一條 秀憲 (東大・薬) |
| 稲田 利文 (東北大・薬) | 上田 泰己 (東大・医) |
| 上村 匡 (京大・生命) | 大隅 典子 (東北大・医) |
| 菊池 章 (阪大・医) | 木村 宏 (東工大・科学技術創成研究院) |
| 倉永英里奈 (東北大・生命) | 胡桃坂仁志 (東大・定量研) |
| 後藤由季子 (東大・薬) | 小原 雄治 (遺伝研) |
| 近藤 滋 (阪大・生命機能) | 斎藤 通紀 (京大・医) |
| 佐谷 秀行 (慶應大・医) | 中島 欽一 (九大・医) |
| 中山 敬一 (九大・生医研) | 鍋島 陽一 (FBRI・先端医療研究センター) |
| 西田 栄介 (理研・BDR) | 原 英二 (阪大・微研) |
| 正井 久雄 (都医学研) | 三浦 正幸 (東大・薬) |
| 本橋ほづみ (東北大・加齢研) | 山本 卓 (広島大・統合生命) |
| 吉森 保 (阪大・生命機能/医) | |

監事

小安 重夫 (理研・IMS)、町田 泰則 (名大・理)

幹事

| | |
|---------|------------------------------------|
| 庶務幹事 | 稲田 利文 (東北大・薬)、木村 宏 (東工大・科学技術創成研究院) |
| 会計幹事 | 三浦 正幸 (東大・薬) |
| 編集幹事 | 上村 匡 (京大・生命) |
| 広報幹事 | 深川 竜郎 (阪大・生命機能) |
| 国際化担当幹事 | 林 茂生 (理研・BDR) |

第21期執行部

阿形理事長、佐々木副理事長、塩見副理事長、稲田庶務幹事、木村庶務幹事、三浦会計幹事、上村編集幹事、深川広報幹事、林国際化担当幹事

Genes to Cells 編集長

西田栄介 (理研・BDR)

賞推薦委員会

正井久雄 (委員長)、後藤由季子、近藤 滋、中山敬一、原 英二

研究助成選考委員会

吉森 保 (委員長)、上田泰己、菊池 章、本橋ほづみ、山本 卓

国際会議支援・選考委員会

石川冬木 (委員長)、荒木弘之、五十嵐和彦、一條秀憲、佐谷秀行

キャリアパス委員会

胡桃坂仁志 (委員長)、木村 宏 (副委員長)、石谷 太、井関祥子、加納純子、
夾生 (道下) 江利子、倉永英里奈、斎藤典子、鈴木淳史、花嶋かりな、林 克彦、
山本 卓

研究倫理委員会

中島欽一 (委員長)、大隅典子、小原雄治、斎藤通紀、鍋島陽一

生命科学教育

胡桃坂仁志 (担当理事)、五島剛太 (委員)

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」第3期 基金運営委員会 (任期：2018年1月1日～2020年12月31日)

小原雄治 (委員長)、林 茂生 (副委員長)、大杉美穂、黒田真也、
後藤由季子、東山哲也、深川竜郎、阿形清和 (職指定)

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2020年5月現在)

アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社エー・イー企画
科研製薬株式会社 薬理部
コスモ・バイオ株式会社
株式会社 SeeDNA 法医学研究所
第一三共株式会社 モダリティ研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
株式会社東海電子顕微鏡解析
東洋紡株式会社 ライフサイエンス事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 開発企画部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
日本たばこ産業株式会社 植物イノベーションセンター
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究推進部バイオ研究グループ
フナコシ株式会社
三菱ケミカル株式会社
ヤマサ醤油株式会社 R & D 管理室
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
ワケンビーテック株式会社 学術部

(21社、50音順)

■第43回（2020年）日本分子生物学会年会 公式サイト

URL: <https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2020/>

■日本分子生物学会 Facebook 公式アカウント

URL: <https://www.facebook.com/mbsj1978/>

特定非営利活動法人

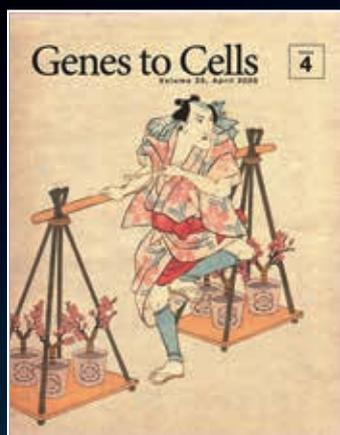
日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4階

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: info@mbsj.jp



Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Eisuke Nishida

Frequency: Monthly | Impact Factor 1.922

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界13,000以上の機関で読まれており、年間310,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。

Genes to Cells 投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- カラー掲載料無料
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への掲載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6カ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- オープンアクセス希望者はオプションで『Online Open』（有料）を選択できます
- 総説は日本分子生物学会のサポートをうけ、出版と同時に無料公開されます

オンライン投稿はこちら <https://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2018年・2019年出版 引用数TOP論文 *2020年4月現在

Involvement of miR-140-3p in Wnt3a and TGFβ3 signaling pathways during osteoblast differentiation in MC3T3-E1 cells
(Volume 23, Issue 7)

Fushimi, S; Nohno, T; Nagatsuka, H; Katsuya, H

Omics research project on prospective cohort studies from the Tohoku Medical Megabank Project
(Volume 23, Issue 6)

Koshiba, S; Motoike, I; Saigusa, D; Inoue, J; Shirota, M; Katoh, Y; Katsuoka, F; Danjoh, I; Hozawa, A; Kuriyama, S; Minegishi, N; Nagasaki, M; Takai-Igarashi, T; Ogishima, S; Fuse, N; Kure, S; Tamiya, G; Tanabe, O; Yasuda, J; Kinoshita, K; Yamamoto, M

Estimated number of off-target candidate sites for antisense oligonucleotides in human mRNA sequences
(Volume 23, Issue 6)

Yoshida, T; Naito, Y; Sasaki, K; Uchida, E; Sato, Y; Naito, M; Kawanishi, T; Obika, S; Inoue, T

Identification of miR-305, a microRNA that promotes aging, and its target mRNAs in *Drosophila* (Volume 23, Issue 2)

Ueda, M; Sato, T; Ohkawa, Y; Inoue, YH



iPhone, iPad 用ジャーナルアプリ
を使って閲覧できます。

← 無料ダウンロード

ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会員は無料でアクセスできます。

初回ユーザー登録は学会事務局まで (info@mbsj.jp)

登録後の問合せはWileyまで (cs-japan@wiley.com)



WILEY

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年3回刊行)

第126号 (2020年6月)

発行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——阿形 清和